

家庭科学習指導案（家庭総合）

日 時 11月8日(火) 5校時
学 級 2年4組(普通科)40名
(男17名 女23名)
場 所 被服室
教科書「新家庭総合」(大修館)
指導者 井手 真理

1 題材名 これからの食生活を考える

2 題材の目標

- (1) 日本の食料自給率の現状を知り、輸入食品における環境負荷を理解することができる。
- (2) 環境に配慮した食生活について考えさせ、実践できる力を身につけることができる。

3 題材の評価規準

- (1) 日本の食料自給率と輸入食品の環境負荷について理解することができる。(知識・理解)
- (2) 食品の原産地調べや食品リスト作成に、積極的に取り組むことができる。(関心・意欲)
- (3) 地産地消の取組を実践するために、どのような食品を利用するか理解することができる。(思考・判断)

4 題材について

(1) 教材観

平成21年度からの総合教育センターとの研究提携のテーマ「よりよく生きる生徒の育成～知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力のバランスを重視して～」について、家庭科では、教科目標を「環境に配慮した生活の基礎的知識を習得し、自ら実践できる力を養う」としている。そこで、食生活分野については日本の食料自給率と輸入食品における環境負荷を理解させ、私たちが地産地消に取り組むことで環境に配慮した食生活になることを認識させ、また、地産地消を実践していくためには、農業生産高全国2位である鹿児島県の生産物に関心を持ち、生産地の表示を見て食品を購入することの大切さも理解させたい。

(2) 生徒観

(ア) 事前調査

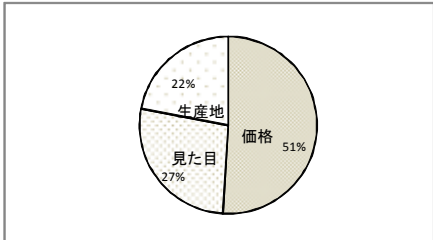
生徒の実態を把握するため、アンケート調査を実施した。

【調査内容・結果・考察】

- | |
|----------------------------------------------------|
| ① 日本の食料自給率は、何%ですか。 [正答40%] 正答率 46% |
| ・ 既習されていたにもかかわらず、正答が5割以下だったので生徒の関心度・理解度の低さが分かった。 |
| ② 鹿児島県の特産品で有名だと思う食品は何ですか。 黒豚 62% さつまいも 16% |
| ③ 県内で生産量の多い農産物（野菜など）は何だと思いますか。
さつまいも 65% 大根 19% |
| ・ 県内の特産品として、黒豚やさつまいもの認知度が高いことが分かった。 |

④ あなたが食料品を購入するとき、最も優先することは何ですか。

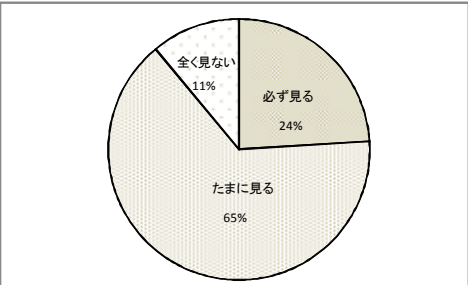
ア 原材料	0%
イ 価格	51%
ウ 見た目（おいしそう）	27%
エ 生産地	22%



・ 価格と見た目を優先して購入する生徒が約8割なので、生産地や原材料については特に気にしないのか、関心も低いようである。

⑤ あなたが食料品を購入するとき、製造年月日・原材料・栄養表示などの表示を見ますか。

ア 必ず見る	24%	イ たまに見る	65%
ウ 全く見ない	11%		



・ 食品表示を「たまに見る」が6割だったので、自分が食べるものへの関心がある程度備わっていると思われる。

⑥ 次の食品の主な原産地はどこだと思いますか。

○ バナナ	[正答 フィリピン]	正答率 78%
○ エビ	[正答 インドネシア・ベトナム等]	正答率 19%

・ 「バナナ」の原産地については正答率が高かったが、既習したにもかかわらず約2割の生徒が誤答だった。また、「エビ」についても既習したが正答率が約2割だった。これらのことから、原産地への興味・関心や知識・理解の定着が低いと思われる。

(イ) 考察

事前調査により、生徒の既習事項の定着度や食品購入時の優先事項、食品表示の関心度等の実態を知ることができた。高校生の食品購入は、嗜好食品や嗜好飲料が中心で、食事の材料を購入する機会は少ないと思われるが、本時の学習をきっかけに日本の食料自給率や輸入食品の環境負荷、食品の生産地に興味・関心をもってもらいたい。そして、地域の食材を大切に作る地産地消を実践することが環境に配慮した食生活となることを理解し実行できるよう、ワークシートやICT教材を工夫して効果的な学習なるようにしたい。

5 指導計画

第5章 生活を営む（26時間）

- (1) 食生活をみつめる・・・2h
- (2) 健康な食生活のために・・・8h
- (3) 安全な食生活のために・・・4h
- (4) 食事をつくる・・・10h
- (5) これからの食生活を考える・・・2h（本時1／2h）

6 本時の学習目標

- (1) 日本の食料自給率と輸入食品における環境負荷について理解することができる。
- (2) 原産地調べを通して県産の食材を知り、地産地消の取組を実践することができる。

7 本時の指導過程

段階	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 ・ 資 料
展 開	導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 日本の食料自給率と農産物輸入について理解する。 日本のフードマイレージの現状と輸入食品におけるCO₂ 排出量を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を理解させる。 日本の食料自給率は40%であること、農産物輸入額は世界で最も多いことを理解させる。 日本は、フードマイレージが高く輸入食品にともなう環境負荷も大きいことを理解させる。 小麦を例にあげ、輸入小麦は国産の小麦の約6倍の CO₂ 排出量があることを理解させる。 	パワーポイント ワークシート ● 日本の食料自給率と環境負荷について理解できたか。(知識・理解) パワーポイント ワークシート
	7分	<ul style="list-style-type: none"> 輸入食品による環境負荷を減らすにはどうすればよいかを考える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 輸入食品における CO₂ 排出量を減らすにはどうすればよいだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 地産地消弁当の例をあげ、地産地消が有効であることに気付かせる。 	パワーポイント
	5分	<ul style="list-style-type: none"> 私たちが地産地消を行うために必要なことは何かを考える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 地産地消の取組を実行するためにはどうしたらよいだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 国産、県産の食品を知ること、食品購入時に表示を見ることが大切なことに気付かせる。 	
	17分	<ul style="list-style-type: none"> 事前にまとめたプリントを使って、食品リストをグループごとに作る。 [グループ活動] 食品リストを黒板に掲示し、食品の原産地を知る。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 私たちが普段よく食べる食品の原産地はどこだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 事前にまとめた食品の原産地一覧を使ってグループごとに、食品リストを作らせ、国産・県産の食品を認識させる。 食品リストを黒板に掲示させる。 食品と原産地を読み上げ、野菜など県産の多いことに気付かせる。 	食品リスト用紙 マーカー ● 食品の原産地に関心があり、積極的に食品リストを作成している。(関心・意欲) ワークシート
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り地産地消の有効性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸入食品における環境負荷を減らすには、食品の原産地を意識し、地元の食材で食事を作ることが有効であることを理解させる。 	● 地産地消の取組を実践することの大切さを理解できたか。(知識・理解)
次予時 告の	1分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、「食生活と環境汚染」を学習することを 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予告をする。 	

8 本時の評価規準

- (1) 日本の食料自給率と輸入食品における環境負荷について理解することができる。(知識・理解)
- (2) 原産地調べを通して県産の食材を知り、地産地消の取組を実践することができる。(関心・意欲)